仏教保育

8 AUGUST

伝えよう　生命の尊さ　ほとけの心

平成24年度「第80回 夏期仏教保育講習会」開く

"いのち"の尊さ学ぶ!!

平成24年7月23日・24日
大本山増上寺・三縁ホール

公益社団法人 日本仏教保育協会（上村映雄理事長）は7月23日・24日の両日、東京仏教保育協会（安藤文隆委員長）の先生方のご協力のもと、恒例の表記講習会を開催しました。

今年も、吉水千草先生（財・全国青少年教化協議会研究員）のご指導で「朝のコーラス」から始まりました。ピアノ伴奏もお馴染みの森田真帆先生です。お腹の筋肉を伸ばす軽いウォーミングアップのあと、吉水先生は「歌詞の意味を理解すると歌に心がこもります」と『四弘誓願』『法の深山』などの意味するところを説かれ、「胸を大きく開けば高い声が出ます」と身ぶりで、『追悼の歌』は「先人たちの教えを受け継ぎ更に前進していきます、という気持ちを込めて、明るく歌い上げるように…」などと、指導されました。

開講式

三帰依文斉唱

安藤委員長

上村理事長

吉水先生

ピアノ伴奏
森田先生

開講式

上村理事長の主導で「三帰依文」を斉唱し、合掌・礼拝に続いて物故者への黙祷を捧げました。

続いて、上村理事長が「この夏の講習会は昭和10年にスタートし、戦時中の一時期に2回ほど休講しましたが、以来80回を数えます。仏教系の幼稚園・保育園では歴史のある講習会です。今、教育・保育の世界も大きな変革の波に動かされていますが、時代がどう変わろうと、子どもたちの成長のため、次代を見据えた講習会としてこれからも続けてまいります。二日間、暑いさなかでありますが、これからの保育に活かして頂ければ有り難いと思います」と挨拶しました。

引き続いて、安藤委員長が「昨年は東日本大震災という未曾有の天災がありましたが、今年同様、盛大に実施することができました。日頃の仏教保育に賭ける心に通じたからだと思っています。お釈迦さまがお悟りを開いて、私たち生きとし生ける環境に合わせて手を携え、慈悲の心で子どもたちを育てていきましょう、というのが仏教保育だと思っています。今日・明日の二日間ですが、内容の濃い講習会だと自負しています。皆さんのこれからの保育に役立つことができれば、こんな嬉しいことはありません。どうか頑張ってください」と激励の言葉を述べました。

第1日目

仏教保育の話

関岡俊二 先生
（公社・日本仏教保育協会副理事長／多摩みゆき幼稚園園長）

「皆さんは自分が働いている園のお寺の宗派を知っていますか?」先生は初めにこう問いかけま

した。知っていると挙手したのは半数ほどでした。開祖の教えを知ることは大事なこと。その教えを保育に活かしてほしいと述べてから本題に入りました。まず三帰依文の意味、例えば「人身受け難し…」とは『人間としていのちを授かったことは稀なことである』といった具合に文言の意味を説かれました。

そして、仏教には小乗仏教と大乗仏教がある。日本や中国は小乗仏教に属すると、その渡来の経緯などに触れたあと、四諦・八正道・六波羅蜜・四摂法などの教えを説かれました。そして、「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」の言葉を引用し、これは保育する者の心構えでもある、と締めくくられました。

仏教の話

清水博雅 先生
（日野わかくさ幼稚園理事長／東京都私立学校審議会委員）

「子どもたちの力が日本の将来に繋がっていきます。どういう方向に繋げていくか。それは先生方の保育の在り方・姿勢にある。つまり先生方の双肩にかかってきます」と、冒頭に激を飛ばされました。それから白板に「佛」という字を書き、「弗」は、非ずの意、「イ」は人だから「佛さまは人に非ず」ということです。このように佛の入り口から話を進め、「すべての物事は『因縁』によって起こる。直接間接を問わず他の何かと関わりを持ちながら過去・現在・未来へと繋がっていきます」と説かれました。

そして、「情けは人の為ならず」は、善行は自分のために行うもの。たくさん善行を施してください、と話を終えられました。

実践しよう生命尊重の保育を

吉岡棟憲 先生
（福島愛育園理事長／曹洞宗全国宗務所長会会長）

先生が居住される地域は、あの原発事故の影響を受けた場所です。はじめに、「自然を破壊し、家庭を崩壊させた非道さ、風評被害の恐ろしさなど、風化させてはならないと思います」と、沈痛な面持ちで語られ「福島のことを語る機会を与えてくださったことを感謝します」と、原発事故の当時の模様、今なお帰れぬ人たちの望郷の思いを話されました。

そして、野口雨情の『シャボン玉』の歌は命の尊さを教え示した歌でもあると説き、「仏教保育」の三綱領を解説。そして、金子みすゞさんの『大漁』、『私と小鳥と鈴と』の詩にある〝みんな ちがって みんないい〟という一節を紹介しながら、「みすゞさんは人間だけでなくすべてのものに優しく接していた。その慈悲の心こそ仏教保育の目指すところです」と熱く語られました。

幼児の心を育てる絵本作り

西本鶏介 先生
（児童文学者／昭和女子大学名誉教授）

「私は仏教の専門家でもないし、僧でもない。ただ、奈良のお寺に囲まれた環境の中で育ったせいか、『ほとけさま』とは縁が深いと思っています。また、こどものくに『ひまわり版』の編集などにも関わっているので、皆さんともご縁があると思っています。」先生はこんな言葉を皮切りに、最近読み聞かせ運動が盛んになりました。それは良いことだと思っていますが、上手でない人が多い。下手とは言いませんが…、と笑いを誘いながら本題に入っていきました。読み聞かせのポイントについては、「よく声色を使って読み聞かせをする人がいるが、その必要はない。ごく普通に読んでいい。ただ、間違わないように丁寧に読むことが大切だ」とのこと。「子どもの心を刺激する話を『童話』というのです」と言い、絵本には動物だけが登場するのが多いようだが、やはり人間もストーリーに加えた方が刺激があると私は考えています。昔話も本質が曲げられているケースがあるが、あれは良くない等々…。最後に先生の作品『ごくらくごくらく』という絵本を読み聞かせてくれました。

第2日目

曹洞宗保育とは

堪山泰学 先生
（公社・日本仏教保育協会監事／建明寺学園理事長）

「最近の若い方は早口ですねぇ。何を言っているのか、高齢者の私には理解できないことが多いです」と、ちょっぴり不満を洩らしつつ、「私はお経の勉強をするために東京の大学に入りましたが、その学生時代には落語を聞きに寄席にもずいぶん通いました。話のコツを覚えるためでした」そう前置きされ、「人間は他の動物と違って最も未熟な状態で生まれます。だからこそ、じっくりと手をかけて育てなければならないのです」と言

い、育て方次第でどういう方向にでも向かいますと、インドで発見された「アマラとカマラ」を例に話をされました。動物に育てられたために、人間には戻れなかったという悲しいお話でした。「礼儀正しい人、素直な心を持つ人、努力を怠らない人、こういう人は出世します。」これは300人の力士を育てた相撲の親方の言葉だそうです。そして、曹洞宗保育を交えながら幼児教育の大切さを説き、「私も先生のようになりたい」と言われるような先生になってください、と話を結びました。

心に響く子どもの歌とリトミック

山岡ゆうこ 先生
（忍たま乱太郎ファミリーイベント歌のお姉さん／歌手／育英短期大学非常勤講師）

山岡先生は壇上に駆け上がると、いきなり手拍子・足拍子で受講者を巻き込んで、音楽を使っての子どもとのコミュニケーションや信頼を確立するための指導が始まりました。「①いつも笑顔で ②いつも元気で ③いつもエネルギッシュで。この三つは、保育園・幼稚園の先生には不可欠のものです。さぁ、元気ではじめましょう！」と会場を、所狭しとばかりに歌に合わせて動きながら指導されました。

インド菩提樹学園の子どもたち

佐藤良純 先生
（大正大学名誉教授／明照学園理事長）
多田証子 先生
（公財・国際仏教興隆協会）

前段は佐藤先生から、昭和34年に横浜から船で初めて渡印した時の様子を回想しながら話されました。3年間ほど滞在されたそうですが、当時のブッダガヤは畑と小さな川があるだけ。近くにセイロン系のお寺がひっそりと建つ、長閑というよりも寒村といった風景だったそうです。そこに日本寺を建立し、施療院を作り、菩提樹学園を設立し、日仏保の協力で幼児教育を開始した。今では、人口12億を超え、6億人が携帯電話を持つまでになった国であると、その経緯を語ってくださいました。

後段では多田先生が菩提樹学園での保育の様子、子どもたちの家庭などの映像を見せながら、生活や菩提樹学園の運営などについて説明してくださいました。

菩提樹学園に来る子どもたちの家庭は貧しく、降園すると家の手伝いをさせられる子が大半です。それでも子どもたちは「ナマステー、ナマステー」と元気にあいさつし、登園してきます。

改めて現地の子どもたちの保育の必要性を認識させられた報告でした。

原発事故による環境と食品への影響

村松康行 先生
（学習院大学理学部教授）

先生はパワーポイントで放射線と放射能の基礎、食品への放射性物質の移行、森林への影響、食品の安全性など、データを示しながら分かりやすく解説してくださいました。放射線の単位であるベクレルはフランスのベクレルという人が発見したので、その名前がついた。内部被ばくと外部被ばくとどちらの危険度が高いか。自然界の放射線について等々…、難しい内容も理解できたようです。また、放射線の測定方法についても、測定器を手に持って数値を示して説明されました。最後に、「放射能を恐れる気持ちは分かりますが、怖がり過ぎてもいけないし、軽く考えられても困ります。正しい情報を正しく理解して対応することが大切です」と述べられました。

閉講式

閉講式では、受講者を代表して五十川（いかがわ）舞（まい）先生（むつみ保育園・岐阜県大垣市）に、上村理事長から修了書が授与されました。五十川先生は「いろいろ貴重なことを学ぶことができました。福島の先生のお話では、いのちの尊さを学びました。仏教保育の教えである『明るく、正しく、仲よく』の心で保育をしてまいります」と力強く謝辞を述べ、「仏教保育の歌」を高らかに斉唱して、二日間にわたる第80回日仏保夏期仏教保育講習会を終えました。

すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

平成24年度 第1回仏教保育研修会　平成24年5月15日／大本山増上寺・三縁ホール

「子ども・子育て新システムと保育」

～最新の動向を踏まえて～

［講師］柏女 霊峰 先生（淑徳大学総合福祉学部教授）

この仏教保育研修会は5月15日に行われたものです。柏女霊峰先生は、福祉の立場で新システムに関わってこられましたので、5月時点での「子ども・子育て新システム」の中間取りまとめを踏まえて、その動向を客観的かつ詳細にお話してくださいました。質疑応答も熱心に交わされ、大きくタイムオーバーするほどでした。

しかしその後、新システムの論議は空転し、民主・自民・公明3党による子ども・子育て関連3法案の修正案が衆議院本会議を通過。7月11日から参議院での審議がスタートしたことはご存知のとおりです（以下は5月時点の講演要旨です）。

ご案内のように、子ども・子育て新システム関係の3法案が国会に提出されました。その内容並びに最終取りまとめ等を踏まえて、出来る限り客観的にお話させて頂きたいと思っています。

因みに、私は福祉の立場からこの新システムに関わってきましたが、取りまとめそのものには携わっていません。また、この法案への賛否を鮮明にする立場でもありません。ただ、法案はすでに国会に提出されておりますので、何とかより良い方向にもって行きたいという思いがあります。

「子ども・子育て新システム」というと保育園や幼稚園の保育サービスだけだと捉えられがちですが、そうではありません。生活地域の子育て支援、子どもの健全育成、社会的擁護の障害児福祉など、それぞれの分野における改革・拡充を目的としています。その財源化のための消費税等の増税を柱とした予算関連の法案ということです。きょうは保育園と幼稚園の先生方のお集まりですので、その分野に限定して話を進めさせて頂きたいと思います。

◇

2012年の通常国会においてすでに成立した「児童手当法改正法」に加え、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税等の一部改正する等の法案」、これが新聞・テレビなどで言われている「消費税増税法」の正式名称です。この法案と共に出されたのが①「子ども・子育て支援法案」、②「総合こども園法案」、③「子ども・子育て支援法及び総合こども園法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律案」の三つです。これが今国会に提出されたものです。

このうち③の「関係法律の整備等に関する法律案」は、56本もの法律が改正されることになります。なかでも一番大きいのが「児童福祉法」であり、私学共済関係、教育公務員特例法の一部改正です。この改正の中には、クレームや教育関係の様々な法律が改正されることになっており、これらの膨大な体系が「子ども・子育て新システム」ということになります。

「子ども・子育て支援法案」の概要

趣旨は、「すべての子どもに良質な成育環境を保障する等のため、子ども及び子育ての支援のための給付の創設並びにこれに必要な財源に関する包括的かつ一元的な制度の構築等の所要措置を講ずる」となっています。

この法案は、保育・幼稚園教育の分野で言えば、介護保険のシステムを子どもの保育の支援分野に導入することに置かれています。つまり、高齢者介護の介護保険法のイメージで出来上がっています。支援法案を見ると、ほぼ介護保険法の流れに沿った内容になっており、それを子どもの分野に適応しようというのが、改正の基本的な考え方です。

「総合こども園法案」の概要

趣旨は、「小学校就学前の子どもに幼児期の学校教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援の総合的な提供を図る『総合こども園』に関し、その設置及び運営その他必要な事項を定める」とあります。

この法案は、子どもの分野に介護保険の仕組み導入するに当たり新しい施設システムを作るということで、法案としては名称が確定し、「総合こども園」とはどういうものかを示すのがこの法案です。

関連3法案についての概要

3法とは、先に述べた「子ども・子育て支援法案」「総合こども園法案」「関係整備法案」の三つですが、「子ども・子育て支援法案」と「総合こども園法案」の二つが成立することによって「関係整備法案」つまり、56本の法律を併せて変えるという形になります。

介護保険の分野では「老人福祉法」や「介護保険法」などがあります。同じような構造である「児童福祉法」はしっかりと残り、子ども・子育ての分野の、

いわば介護保険に相当するものについては「子ども・子育て支援法案」によるという形になります。つまり、介護保険法と子ども・子育て支援法案の違いは、財源が異なっているということです。

財源としては、介護保険は40歳以上の保険料等で（国費も入っているけれども）ほぼ保険料で賄い、子ども・子育て支援等のシステムでは税で賄うことになります。以前には「育児保険法」の検討も行われましたが、保険には馴染みにくいということもあって税で賄おうということになりました。その財源としては従来の財源と一緒にここに消費税を投入するというものです。７０００億円の財布を作り、そこから市町村に給付していくという形になるかと思います。従って、老人福祉法と介護保険法の関係と同じように、児童福祉法と子ども・子育て支援法の関係になってくるかと思います。

子ども・子育て新システム検討の背景と目的

この新システムが行われる背景は、大きく分けて四つあります。①「待機児童対策」②「地域の子どもを親の都合で分断しない」③「幼児期の教育の振興」④「全世代型社会保障の実現」の４点です。

①は、育児休業から復帰する人たちが子どもを保育施設に入所できないため、仕事を続けられないケースがあります。その対応策として「指定制度」を導入し、飛躍的に保育サービスを伸ばしていこうというものです。２０００年に介護保険制度に指定制度を採り入れ、需要・供給を飛躍的に増やすことができました。その制度を待機児童の対応策に導入し、需要管理をしようというものです。②は、親の事情で子どもを分断しないで、共に育てていきましょうという視点によるものです。③は、世界的な趨勢にもなっている幼児期の教育の振興によって質の向上が手段として考えられています。その財源として消費税を有効に活用したいとしています。④は、日本は欧州諸国に比べて子どもへの社会保障の給付の割合がかなり低い（約４％）ので、欧州並みの８％～10％給付の実現を目指そうということです。この四つを目的に法案を構築していくというものです。

指定制度の概要

これは、経営にとって大切なところです。

指定制については法人格を原則とし、質の確保の観点から５年ごとに更新することになります。参入段階、運営段階、撤退段階ごとに要件が設けられ、指定事業者には指定基準に従って事業を実施する義務が課されます。また、撤退についても一定の規制を設け、情報開示の義務化が図られます。指定・指定監督の主体は市町村となります。この指定の更新はケースによってしなくても良い場合がありますが、その更新をするかどうかの判断は市町村が行うことになります。

問題は、指定制度が始まった場合、「指定こども園」になるかどうかの判断が求められますが、これは厳しい選択でもあります。なぜなら、都市部ではまだまだ供給解除になりにくい状況ですが、郡部ですと地域によってはすぐにも供給解除という状態が予想されます。従って、最初から指定こども園になっておかないと、「新システムにはしない」と市町村が決めれば、その後からでは指定こども園にはなれないことが予想されます。参入・運営・撤退の各段階においてそれぞれ一定の要件を満たしてさえいれば、株式会社、ＮＰＯ法人であっても、学校法人や社会福祉法人と同列に扱うことにしているだけに、その判断には厳しい見通しが要求されそうです。

「こども園給付」について

「こども園給付については保護者に対する個人給付を基礎とし、確実に学校教育・保育に要する費用に充てるため、法廷代理受領の仕組みとする」と謳っています。つまり、本来は利用者に支払われるものですが、利用者に直接お金を渡すと本当に子どものために使われるという保証がないということも考えられるので、親に渡す代わりにその子どもがサービスを受ける施設（こども園）に支払うという仕組みなのです。これを「個人給付」と言います。

◇

この他、柏女先生は、施設の一体化をはじめ、設置基準の見直し、減価償却費の導入、新システムの課題や懸念などにも触れられました。

「これは私見ではありますが、今回の新システムには財源の裏打ちが不十分のまま議論が進められているように思えます。労働政策や育児休業の在り方など、いずれも大きな課題ではありますが、保育所も幼稚園もすでにある施設・機能を更に活性化していくことこそ、大事ではないかと思っています」と、締め括られました。

日本仏教保育協会編集による出席カードです。
仏教行事を楽しい絵柄で構成しています。

はなまつり、成道会、涅槃会などの仏教行事を、かわいいイラストでファンタジックに表現しています。

出席カード（仏教版）２０１２年度版
税込３９０円（本体価格３７２円）
セットでのご使用がおすすめです！
出席シール（仏教版）２０１２年度版
税込２８０円（本体価格２６７円）

〒113-8611　東京都文京区本駒込6-14-9　電話03(5395)6608　http://www.froebel-kan.co.jp　フレーベル館

「第57回 関西地区仏教保育研修会」報告

平成24年6月30日／知恩院和順会館和順ホール

月かげ保育園園長（京都）　浦田　裕人

梅雨空の束の間の太陽が顔を見せた6月30日土曜日、知恩院和順会館和順ホールにおいて、第57回関西地区仏教保育研修会が開催されました。京都をはじめ滋賀、大阪、兵庫から会場を埋め尽くす213名の参加がありました。

開会式では、音楽法要のあと運営委員長の開会挨拶に続き、東京から駆けつけて頂いた、公益社団法人 日本仏教保育協会の上村映雄理事長の祝辞がありました。

研修では、初めに総本山知恩院門跡・伊藤唯眞猊下からお話を伺いました。猊下が佛教大学付属幼稚園の園長をされていたときのご経験をもとに、子どもを抱き締めることの大切さなどのお話をして頂きました。

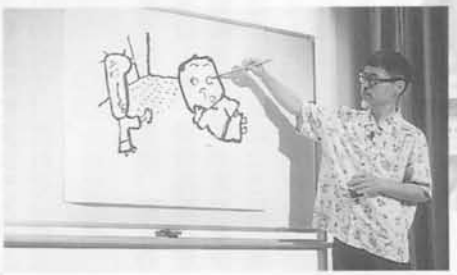
絵本作家・長谷川義史さんの講演『絵本で元気に！』が休憩をはさんで行われました。講演はスクリーンに映したご自身の絵本の読み聞かせ形式で進められ、小学生のとき実のお父様を亡くされたことを『てんごくのおとうちゃん』で、その後のご自身の小学生の体験を『かあちゃんがつくったる』で、今の長谷川家の様子を『まわるおすし』で笑いの中にもしんみりと心に沁みわたるお話でした。

『串かつやよしこさん』『じゃがいもポテトくん』では会場は笑いで包まれました。

実際に目の前で模造紙に絵を描きながら『貧乏神』のお話が進むライブ紙芝居や、ウクレレの弾き語りなど、90分があっという間に過ぎました。

講演終了後、講師・長谷川義史さんの絵本の販売並びにサイン会も行われ、本屋さんもびっくりするほどの大盛況でした。

閉講式では、次回開催地大阪の運営委員長・行友伸二先生から「大阪には、おいしいものもたくさんあるので、来年は大阪に来てください」との挨拶があり、本研修運営副委員長の閉会挨拶で会が閉じられました。



「ほとけの子」は保護者向けの月刊誌です。
心の豊かさが求められる今日です。
仏教保育を主眼とした内容、
特に年５回の仏教行事の特集は、
行事説明だけに終わらない、
その道の諸先生方の御健筆が冴えています。
御購読下さいますようお薦め下さい。

公益社団法人 日本仏教保育協会編集
月刊 ほとけの子
定価120円(税込)
株式会社 宣協社
〒150 東京都渋谷区鶯谷町7-7 OHビル201号
TEL. 03-3463-1931(代)　FAX. 03-3463-0608

暑中見舞

（到着順・敬称略）
次号へつづく

言問幼稚園
日仏保参務 園代表役員
〒131・0033 東京都墨田区向島5・4・4 TEL 03・3622・7771
小林 昭彦

城北幼稚園
日仏保副理事長 園長
〒462・0022 名古屋市北区川中町6・11 TEL 052・981・1386
三浦 俊彦

野田生こばと保育園
園長
〒049・2672 北海道二海郡八雲町野田生80 TEL 0137・66・2576
菅原 諭貴

パドマ幼稚園
日仏保理事 園長
〒380・0847 長野市若松町1028 TEL 026・235・3035
金子 英滋

多摩みゆき幼稚園
学・高西寺学園
日仏保副理事長 園理事長
〒206・0021 東京都多摩市連光寺2・24・6 TEL 042・374・6040
関岡 俊二

光應寺保育園
園代表役員
〒812・0017 福岡市博多区美野島2・6・31 TEL 092・441・9715
古賀 成麿

るんびにー保育園
社福・愛育会
日仏保理事 園理事長・園長
〒522・0083 滋賀県彦根市河原1・1・4 TEL 0749・26・1230
小川 良紘

八王子ひまわり保育園
園理事長 園長
〒193・0944 東京都八王子市館町1629 TEL 042・661・3046
野上 良仁
野上 浩達

浜田保育園
園理事長・園長
〒510・0067 三重県四日市市浜田町10・15 TEL 059・353・3452
丹羽 愛子

深川幼稚園
園 長
〒074・0013 北海道深川市文光町17・6 TEL 0164・22・3027
山児 憲明

和敬幼稚園
園 長
〒143・0012 東京都大田区大森東3・7・4 TEL 03・3761・3069
北條 奈々

誕生院保育園
本願寺社会福祉事業センター
園 長
〒601・1417 京都市伏見区日野西大道町西本願寺別堂19 TEL 075・571・0174
伊藤 眞

常徳幼稚園
宗教法人
園 長
〒156・0051 東京都世田谷区宮坂2・10・1 TEL 03・3427・2251
武田 治恵

明福寺ルンビニー学園幼稚園
日仏保参務 園長
〒132・0013 東京都江戸川区江戸川3・8 TEL 03・3670・0134
福井 豊信

ふくむろ幼稚園
学・西光寺学園
園 長
〒983・0005 仙台市宮城野区福室5・11・30 TEL 022・258・0026
三浦 宗格

帯広幼稚園
学・帯広童谷学園
園理事長 園長
〒080・2471 北海道帯広市西21条南3・22・2 TEL 0155・35・7122
中田 周敬
谷内 敞

ほぜんじ幼稚園
日仏保理事長 園長
〒164・0002 東京都中野区上高田1・31・2 TEL 03・3364・3381
上村 映雄

高安寺保育園
園 長
〒183・0021 東京都府中市片町2・4・1 TEL 042・364・7651
小澤 宏

大徳寺保育園
宗・玉林院
園 長
〒603・8231 京都市北区紫野大徳寺町74 TEL 075・491・8818
森 義昭

足利幼稚園
学・鑁阿寺学園
園理事長・園長
〒328・0803 栃木県足利市家富町2188 TEL 0284・21・3475
山越 忍隆

佛教大学
学・佛教教育学園
学 長
〒603・8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96 TEL 075・491・2141
山極 伸之

台東初音幼稚園
園 長
〒110・0001 東京都台東区谷中5・2・4 TEL 03・3822・2431
髙橋 大海

聖愛保育園
社福・三密会
高野山真言宗保連 園理事長・園理事長
〒807・1103 北九州市八幡西区香月西2・4・35 TEL 093・617・0209
山本 文雄

初山幼稚園
学・本遠寺学園
園理事長
〒216・0026 川崎市宮前区初山1・2・1 TEL 044・977・5671
町田 順文

萬徳寺保育園
日仏保参務 園理事長
〒314・0146 茨城県神栖市平泉2325・1 TEL 0299・92・2704
岩堀 法道

水上わかくりこども園
園理事長 園 長
〒379・1617 群馬県利根郡みなかみ町湯原985 TEL 0278・72・4120
堪山 泰学
堪山 泰賢

北港学園保育所
財・多善会
日仏保参務 園理事長
〒554・0051 大阪市此花区西島3・26・11 TEL 06・6461・7849
神谷 周道

鈴蘭幼稚園
園 長
〒158・0093 東京都世田谷区上野毛2・15・15 TEL 03・3704・1881
梅田 静子

高松保育園
園 長
〒760・0044 香川県高松市御坊町2・2 TEL 087・821・9347
堀 仁

淑徳短期大学
学 長
〒174・8631 東京都板橋区前野町6・36・4 TEL 03・3966・7631
石上 善應

西川口幼稚園
園 長
〒332・0021 埼玉県川口市西川口3・34・5 TEL 048・251・3076
稲岡 福子

双丘保育園
園 長
〒616・8044 京都市右京区花園扇野町49 TEL 075・461・9428
川井 戒本

光徳寺保育園
宗・安養寺
日仏保運営審議委員 園長
〒132・0035 東京都江戸川区平井6・53・7 TEL 03・3618・0511
秋山 秀阿

瑠璃光幼児園
宗・成福寺
園 長
〒462・0866 名古屋市北区瑠璃光町1・8 TEL 052・912・5063
原田 道雄

呉あそか幼稚園
日仏保理事 園長
〒737・0022 広島県呉市清水2・1・26 TEL 0823・25・5671
西村 英昭

むらさき幼稚園
園理事長 園 長
〒617・0814 京都府長岡京市今里5・12・9 TEL 075・953・0505
家田 隆現
家田 光信

小桜幼稚園
園 長
〒993・0053 山形県長井市中道1・7・5 TEL 0238・88・2481
神尾 知秀

滝川幼稚園
学・滝川学園
園理事長・園長
〒073・0031 北海道滝川市栄町2・7・13 TEL 0125・23・2478
泉 敬止

子ども・子育て3法案、参議院で審議スタート

一昨年の11月、幼稚園や保育園を震撼させる衝撃的な提案が政府から打ち出されたことは周知のとおりです。それから2年余、右顧左眄しながらも政府はついに現行どおり幼稚園・保育所・認定こども園の3施設による保育の展開を認めることになりました。そして私学助成の充実はもとより、幼児教育の無償化の検討も視野に入れた審議が、いよいよ参議院で始まりました。保育界が一丸となって百年・二百年の国づくりを目指した幼児教育・保育を死守した成果と言えます。

長時間保育の悪弊は知られているところですが、そのような施設に一日の大半預ければ、その子どもたちは適応能力が低下するという話を耳にしました。例えば「我慢することを覚えた子どもは諦めることを覚え、諦めることを覚えた子どもは期待することを忘れていく。期待することを忘れた子どもはお母さんや先生から愛されている、友だちから好かれている、といった自己肯定感を否定する」というのです。

子ども一人ひとりに寄り添った教育・保育の大切さを改めて考えさせられた言葉でした。

事務局日誌

7／3　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
　　栃木実行委員との全国大会打合せ
7／23～24　「第80回夏期仏教保育講習会」
　　大本山増上寺・三縁ホール
7／30　「ほとけの子」編集会議
7／31　こどものくに「たんぽぽ版」編集会議

編集後記

■夏は子どもたちにとっても「火」に出会う機会が多いときです。花火、キャンプファイヤー、バーベキュー、提灯などなど…。大切に正しく使うことをご家族や園生活で学びたいものですね■7月28日に開幕したロンドンオリンピックの開会式は華やかでした。クライマックスはオリンピアの聖火をスタジアムに点火した瞬間です。スタジアム全体を包む花火の色、参加国の協調と平和を象徴した聖火の儀式でした■「聖火」というように火は聖なるものです。火と共に人類は発展してきたと言っても過言でありません。しかし使い方によっては邪なるものになってしまいます。二酸化炭素放出による温暖化、そして日本においては8月の敗戦も忘れることはできません。人のいのちを包むものでありながら、同時に人のいのちを奪うものにもなりかねません。仏教が教える「智慧」を学び伝えることで、そのものが持つ本来の力を正しく活かしていくことが大切ですね。（五島）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 上村映雄　編集人 高山久照
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

ポップアップ絵本 おしゃかさま

★お誕生からお涅槃までのお釈迦さまのご生涯をつづった大型の立体絵本です。ポップアップならではの精密かつダイナミックな仕掛けをふんだんに盛り込みました。布教活動や仏教保育の現場でご活用いただけます。

¥21,000（税抜¥20,000）
サイズ：W31×D5×H43cm
重量約2kg
化粧箱（W33 × D5.5 ×H45.5cm）入り
10ページ（見開き5画面）
（社）日本仏教保育協会／監修
諸橋精光／作
さくらいひろし／PAPER ENGINEERING
脚本ガイド付き

誰でも一度は読んでおきたい…
名作児童文学紙芝居
走れメロス　20場面 ¥3,675
泣いた赤おに　16場面 ¥2,940
手ぶくろを買いに　16場面 ¥2,940
（価格は税込）

すずき出版　鈴木出版株式会社
〒113-0021 東京都文京区本駒込6－4－21
電話 〇三－三九四五－六六一二
ファクス 〇三－三九四五－六六一六
●http://www.suzuki-syuppan.co.jp/